

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1176501839
法人名	株式会社 カネット・ふれあい
事業所名	ふれあい多居夢大宮
所在地	331-0053 埼玉県さいたま市西区植田谷本前通461-3 (電話) 048-620-6616

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成20年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤1人, 常勤換算15.8人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2 歳	最低 63 歳	最高	90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須賀医院、戸田中央総合病院、森歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、田園風景が残る住宅地の中にあり、リビングからは富士山も見え四季の変化が一望できる。利用者の個々の意思が尊重され、その人らしい個別ケアの実践に日々取り組んでいる。生活基盤の要素として食事への関わりを大切にしており、食材の買い出しから調理・片付けまで、職員と利用者が共に協力し合いながら行っている。また、職員配置は居室担当制をとっており、日々の支援業務や介護等、利用者との関わりを通して職員育成を図っている。家庭的な環境のもと、自治会・地域住民との交流の機会を持ちながら、介護相談を受けたり、グループホームとしての役割を果たしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の結果を踏まえて利用者の個別ケアの実践に向けて居室担当制を導入し、介護計画・実践記録等利用者の状態を細かに観察しながら、ケアマネジメントしている。管理者は、その人らしさを尊重したケアについて、職員と密接に連携し、利用者中心のケアに取り組んでいる。安全管理に配慮しながら、利用者の健全なパワーが発揮できるよう配慮している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長と職員は、フロア会議において、自己評価の各項目ごとに意見交換しながら、日々の業務を振り返り、業務改善に向けての取り組みをしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、家族、自治会長、地域包括支援センターが出席し、ホームの行事や現状について話し合い、自治会館の使用やボランティア等についての協力体制が整えられている。また、地域や自治会の情報を得る貴重な場でもある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見・苦情は、原則として居室担当者が受理し、管理者まで報告するシステムをとっており、管理者が責任をもって対応・解決している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の、生き生きサロン(老人会)への参加や、散歩時の声かけ合い等、地域に溶け込んだ生活に努めている。地域住民やボランティアがホームへ気軽に出入りできるよう、玄関に施錠しない開放的な取り組みを心がけている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム内に、同一法人内のグループホームで共通して掲げているきめ細かな理念が表示されているが、事業所独自の理念ではない。		事業所独自の理念を明示し、グループホームとしてのサービス向上と地域における更なる貢献を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、新人研修や緒会議において、職員と理念を共有しながら、理念の実践に向けた話し合いや介護サービスに生かす取り組みをしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会館での生き生きサロンへの参加や、将棋・大正琴等のボランティアの受け入れ等、地元住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施については、管理者及び職員で話し合い、職員全員で取り組んでいる。また外部評価の結果については、運営者、職員、家族に情報提供し、評価を活かしたサービス改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回、自治会長、家族、地域包括支援センター等の職員が集まり、報告や活発な意見交換を行い、サービス向上に生かしている。会議内容は議事録として全職員が閲覧している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスにおける疑問点等は、管理者、渉外担当職員が、市の介護保険課と連絡を取り、報告・相談しながら、サービス向上に向けた取り組みをしている。また、市の介護相談員との連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホームの便りである「ふれあい通信」を作成し、ホームのニュースや利用者の近況を家族に報告している。また、一時預かり金の出納についても月ごとに報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等は、居室担当者から管理者まで伝わるようなシステムを構築し、管理者が責任をもって、解決している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、離職・異動は少ないが、職員のマンネリ化を防ぐために、1階と2階の副ホーム長の交代を行った。職員は居室担当制をとっており、馴染みの関係の構築と、責任の明確化を大切にしている。利用者やその家族に対しては、職員の異動についてきちんと説明し、異動についての理解を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員の研修にかかる費用を、毎年予算に取り込み、法人内外の研修への参加を確実にできるようにしている。介護支援専門員や介護福祉士の試験前には休暇がとれるようにし、また、大学・大学院への通学者には勤務上の配慮をして、資格や学位取得のサポートをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の認知症高齢者グループホーム協議会に所属し、交流の機会を設けている。また、法人グループホーム間での会議等で勉強会や、相互訪問により、サービスの向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始の際には、ショートステイや、家族と共に宿泊する方法をとり、徐々にホームの雰囲気に馴染み、安心して入居できるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から、日本の昔の生活や礼儀作法、料理の工夫等、様々なことを学んだり、時には相談事を聞いてもらい、アドバイスをもらう等、支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や生活スタイルを把握して介護計画を立てている。本人の判断が難しい場合は、家族と話し合い一緒に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族とよく話し合い、個別具体的な介護計画を作成している。たとえば水分摂取が苦手な方には、話し合いの結果で、ジュースをゼリー状にして水分補充を促す等の工夫をしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に介護計画のモニタリングを行うが、本人の状態変化、本人・家族の意思を尊重して、状態に合わせたプランとなるよう、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じ、寺院や自治会の活動に参加できるように支援している。また、家族の状況により、通院介助や受診の付き添いを行っている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に、本人と家族の希望をふまえて、かかりつけ医を決めている。事業所が依頼している協力医が、月2回、定期的な往診を行っているなど、利用者の状態に応じた医療を提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護計画の更新時には、家族と十分話し合い、終末期に向けた方向性を相談している。ホームで出来ることを確認しながら、家族、かかりつけ医、職員が何回も話し合いをし、方針を共有して、可能な支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録には、本人以外はイニシャルや伏字を使用して、プライバシーの保護に配慮している。対応は個人の尊厳を尊重しつつ、馴染みの関係を大切にしているので、擬似家族的な言葉を使用することもある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の希望やペースを大切にしている。散歩や買い物、外食等、その日の過ごし方や状態に合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは職員と利用者で考え、食材の買い物、調理、盛り付け、食事、片付け等、利用者と共にやっている。食事は生活の基盤であるという方針のもと、職員と利用者が共に作業し、楽しみとなることを目指した支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は昼の時間帯に個人個人の好みで、何時でも入浴できるようにしている。入浴が苦手な人には、週2回は入ってもらうよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に発症経過や生活歴を把握し、個人の趣味等を生かした支援をしている。家族の協力のもと、墓参りをしたり、野球好きの人は、公園でキャッチボールをする等の楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には1日1回は買い物・散歩で外出できるようにしている。外出困難な人には外気浴をして気分転換を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所以来、玄関・居室に鍵をかけることはなく、自由な生活を支えている。夜間は、防犯上、玄関に施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消火・避難訓練をし、災害時の対応について訓練している。地域の自治会長やマンションの隣人からも協力が得られるよう、日ごろから挨拶や自治会の行事等に参加し、働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは、管理栄養士にチェックをしてもらい、栄養バランスや量について適切な食事摂取に心がけている。水分摂取についても、ゼリー等の食品を工夫しながら利用者一人ひとりの状態や好みを考えて支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは適度な明るさでソファーや花を置き、季節感を感じながら過ごせるよう工夫している。職員の話し声や生活音が不快にならないよう、また、異臭がなく、快適に過ごせるよう配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台・エアコン・クローゼットが設置されている。その他は家族と相談しながら、本人の馴染みの物品や、ベッド・畳等を持ち込むことができ、個人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		